

＜事業所＞ 2025年度 神山さつきの森 自己評価表

実施 2026.3.15

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		事業所室内は 手狭なので法人内の施設（絆棟、農園、広場等）を活用し、スペースの確保に努めています。室内で過ごすときのルールを決め、子供たちの意見を聞いて、外での活
	2 職員の配置数は適切であるか	○			職員は基準を上回る人数を配置し、専門的支援ができる職員も複数配置しています。個別のニーズにこたえ、個別の関わりから活動を広げ 徐々に自立して一人で過ごす、小集団で遊ぶ時間を増やしていく様にしています
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			車椅子での移動が可能なように最低限の配慮はできています 活動場所とやることを明確化し、いい行動がしやすい環境の構造化を進めています
業務改善	4 業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			毎日の支援についてサービス提供後に振り返りを行い、支援の改善を常に行っている 勤務上 振り返りに参加できない職員は、HUGの職員共有欄で情報共有をしています。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			2025年2月に保護者にアンケート調査を実施し90%以上の回答を頂きました。保護者面談、交流会などでの保護者からの意見も踏まえ、事業所運営を行っています
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			法人HPに掲載しています。保護者に対してはお便りでもお伝えしています。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	これまで第三者評価を受けたことはありません。他施設の方や発達障害者支援センターのコンサルなどを受け、業務の改善を行っています。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			毎日の支援の振り返りの中で、ケース検討を行う時間を設けています。職員自主研修としてNPO法人ゆうの狭野ます美先生の「ティーチャーストレーニング フォロアアップ研修」を7名が受講。座学と実践を繰り返して支援力の向上をはかりました。県の強行研修にも参加しました。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者と必要に応じHUGの保護者との連絡やメールで話をし、子どもの成長や状況の変化に伴いニーズを把握している。また、個別支援計画に反映させている。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			SM社会能力検査、乳幼児発達スケールKIDS、自閉症特性シートなどを用いて客観的な評価を行っています。ストラテジーシートなどを用いて行動の分析をしています
	11 個別支援計画には、放課後等デイサービスのガイドラインで示す5領域の目標が明記され、「本人支援」「家族支援」「移行支援」で示す内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されているか	○			ガイドラインで示す5領域の目標を明記した個別支援計画を作成しています。家族支援では家族の話から、家庭での目標を明記し、半年に1回のモニタリングの中で評価し、目標を再設定をしています。
	12 個別支援計画に沿った支援が行われているか	○			スタッフ全員が意識した支援はできていない。日々のミーティングの中で児発管から伝えている
	13 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			前日の活動後または 活動前にMTを行いチームで活動プログラムを決めている。個別性が高いので、いくつかの活動の選択肢を随時用意しています。
14 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			毎日行う個別課題は、習得に合わせて変化させています。農作業体験、創作活動では季節的な要素も取り込み、様々な体験ができるように工夫しています。全ての子どもが外出をし、体を動かす活動を取り入れています。外出先も広げています	
15 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			個別課題の時間と、商業施設や公園などへの外出をして体を動かす時間を必ず入れています。個別対応が必要な場合は、スタッフとマンツーマンで出かけるなど、個々に応じた活動や支援を丁寧に行っています 内容が固定化しないように変化を持たせています	

適切な支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		興味関心に応じて個別活動を行うと共に、全体活動では子ども同士の交流が図れるように計画しています ボードゲームやカードゲーム、二人以上の簡単なあそびを提供し、集団でできる活動を取り入れて計画を立てています
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		毎朝、打合せを行い、前日までの情報の共有と、当日の支援内容の確認、役割分担を行っています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		支援終了後、毎日振り返りの時間をもっています。情報を共有し、支援の改善に取り組んでいます。参加できなかった職員には必要に応じ 職員メールまたはHUGの職員欄で共有をはかっています
	19	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		利用日ごとに支援内容と児童の状況をHUGで記録するとともに、問題行動については 次回の対応方針をその場で決め、環境調整、事前対応を徹底し改善につなげています
	20	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		モニタリングの標準期間だけでなく、児童の状況の変化や保護者の意向なども踏まえて計画の見直しを行っています
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○		自立支援、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇活動の提供などを組み合わせた支援を行っています
	22	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		サービス担当者会議は 児発管が出席しています。人員不足のため、複数での参加は難しい。今後、可能な限り担当する職員も出席するようにしたいと思います
	23	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		特別支援学校の行事予定をメールでいただき、学校へのお迎え時に先生から状況を聞く、連絡会への参加、電話での情報確認などをおこなっています。必要に応じ、電話、メールなどでも情報を共有しています
	24	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		医療的なケアを必要とする児童の利用はありませんが、てんかん発作があるなど医療的な配慮が必要な児童については保護者と連絡方法や対応方法を確認しています。
	25	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		児童発達支援での個別支援計画を保護者からいただき、課題や支援の共有を図るようにしています 保護者の理解を得て児童発達支援事業所を訪問し情報の共有を図っています。
	26	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		高等部卒業後、障害福祉サービス事業所より情報を求められた際は、保護者の理解を得た上で、支援内容の情報をお伝えしています。必要に応じ実習前に放デイでの支援内容をまとめ、事業所、学校と共有しています
	27	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		発達障害者支援センターに通う利用児童がいるので、言語指導について 助言をお願いしています 複数の研修を受講しています 8の回答の通り
	28	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	交流機会はありません。交流することが過度な刺激となり、フラスの経験にならない子どももいるので、今後、個々の状況に応じて検討改善していきます。
	29	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	○		今年度は御殿場小山の放デイ連絡会に3回参加し、裾野市の方で連絡会にも1度参加しました。共通の課題や悩みを共有し、新たな考えや情報を得る機会となりました
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		日々の様子は連絡ノートを活用すると共に送迎の際にも口頭で伝えています。課題や問題については児発管からメールや電話で連絡したり、個別に面談するなどして対応しています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		連絡帳やメールで保護者の困りごとに具体的なアドバイスを行って、家庭で実践できることをお伝えするようにしています 個別面談および保護者交流会の時に、事業所内での実践を伝え 自宅でできる視覚支援や構造化について提案をしています
保護者との連携	32	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		運営規定の変更があった場合には、保護者向けにお手紙を配布しています。支援内容については通信や広報誌でお伝えしています
	33	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者からの相談は個別に面談時間を設定するなどして相談に応じています。29の回答の通り。

説明責任等	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		保護者交流会を2回(6月12月)開催しました。 6月は放デイから支援の内容についての紹介を行い、保護者同士の交流を行った。12月は保護者交流会拡大版として竹山美奈子さん(自閉症児の保護者 絵本作家)の研修会、交流会を開催。保護者が情報を得て繋がる機会となった
	35	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		保護者からの苦情や要望がしやくすくするために広報活動や意見箱を設置するなどしています 苦情についてはメールや電話で迅速に対応しています。児発管不在時の対応に課題があったので改善していきます
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○	保護者向け通信、法人広報誌を発行しています。土曜日活動は年間予定 行事予定を出しています 平日は変化が多いため行事予定を出していません。
	37	個人情報に十分注意しているか		○	個人情報保護については、書類管理を徹底してその保持に努めています。インスタに顔が出ていた当事者より削除を求められる事案があった。SNSに発信する場合の同意については、本人も含めて行っていくように改善する。
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		情報は具体的、視覚的に伝えることを意識しています。今後もより一層意思疎通がはかれるよう、個に応じた配慮を行っていきます。
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	法人主催の「さつきまつり」が開催され、放デイの活動の写真展示を行いました。放デイ利用の保護者や地域住民の方にもたくさん参加して頂き、活動を知っていただく機会となりました。12月の研修会は外部の保護者支援者の参加もあり、支援内容、希望者には事業所見学なども行いました。
非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		緊急時の対応マニュアルを明文化し、保護者に説明、配布しました。緊急連絡の訓練等を開催しました
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		毎月1回の防災訓練を実施しました。看護士によるけが人対応研修や非常食や備蓄品の把握・入れ替え、災害伝言ダイヤルを利用した保護者参加型の訓練も実施しました
	42	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		○	2か月に1回自己評価チェックを行い、職員の虐待防止、権利擁護の理解啓発に努めています 来年度は職員全体研修を行いたいと思います
	43	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		現在、該当する児童生徒はいません。今後必要がある児童生徒が利用する場合には、相談支援事業所とも連携し、保護者とも十分に相談して合意のうえで行います。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		保護者を通じて情報を得て適切に対応しています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリハットの記録を残し、事業所内で回覧、HUGで情報共有、スタッフミーティングにおいて再発防止、事故防止について確認しています。
意見等・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・色々なレベルの子供たちが1室で過ごしているので、時間を決めて、絆棟や広場、外出などをして活動をわけるようにしている。子供達は、室内活動と外活動などを行う事で、活動のバリエーションが広がっている 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児童生徒の幅が広く(特別支援学校の小学部から高等部、支援学級、普通学級在籍の小学校から高校まで)、それぞれに活動プログラムを用意しなければいけない状況 丁寧な支援を行っている一方、職員全員で共有する十分な時間がとれていない現状がある 職員全体MTの機会が少なかった 今後改善していきたい 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・外部のコンサルテーション、自閉症eサービス研修、他施設の見学などを行い、支援力の向上に務めた。ティーチャーズトレーニングは 職員自主研修として開催したがほぼ全員が受講し 利用児の理解や支援技術の向上を図ることができた。外部研修、外部のコンサルテーションは継続して受けていきたい 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の構造化、視覚支援を進めたことで 子供達が自分から表出するコミュニケーションが増えた。一部の子供にはPECSを重点的に実施している。まだ十分ではないので さらに再構造化を進めて、子供達が安心して活動し、自立的に動ける環境にしていきたい。子供たちの成長には保護者と学校との連携が不可欠なので、連携を強化していきたい 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・完全個室部屋や失便や排泄で汚れた体や衣類を洗う設備があるいい。 				